

2027年4月入学

大学院情報学研究科（博士前期課程）

Graduate School of Informatics（Master's Program）

推薦入試

学生募集要項

Application Guidelines

出願期間	2026年5月14日（木）～28日（木）
試験日	2026年7月6日（月）
合格者発表	2026年7月30日（木）



群馬大学

Gunma University

〈インターネット出願について〉

群馬大学では、志願者の利便性向上及び入試業務の効率化を図るため、紙の募集要項ではなく、インターネット出願を導入しております。

インターネット出願の導入により、学生募集要項の取り寄せが不要となり、出願期間中は 24 時間いつでも出願登録ができます。

目 次

○ 群馬大学大学院の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
○ 情報学研究科博士前期課程各プログラムの入学受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
1. 募集人員	2
2. 入学の時期	2
3. 出願資格及び出願要件	2
4. 出願手続	2
5. 出願書類等の提出先及び提出方法	6
6. 受験票について	6
7. 障害等のある入学志願者との事前相談について	6
8. 選抜方法	6
9. 試験日程及び試験会場等	6
10. 合格者発表	7
11. 入学手続	7
12. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予	7
13. 奨学金	8
14. 教育方法の特例	8
15. 入学志願者等の個人情報保護について	8
16. 長期履修学生制度	8
17. 早期修了	8
○ 群馬大学大学院 検定料払込方法	9
○ 試験場までの交通案内	10
○ 群馬大学大学院情報学研究科博士前期課程について	11

※本要項に記載されている日付はすべて日本標準時間とします

【問合せ先】

群馬大学情報学部 教務係（情報学研究科担当）
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町 4-2
TEL 027-220-7412
FAX 027-220-7405
E-mail: inf-kyomu@ml.gunma-u.ac.jp

群馬大学大学院の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

～このような人を求めています～

各研究科・学府・学環が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

情報学研究科博士前期課程各プログラムの入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

<人材育成の目標>

【情報科学プログラム】

情報科学・データサイエンスの専門知識に基づいて研究開発の一翼を担える能力を涵養するとともに、情報技術と密接に関係する社会の諸相について理解を深め、これらを通じて急激に変化する社会に対応して専門知識に基づく問題解決を図り未来社会の創造を担う高度専門職業人

【社会情報学プログラム】

人文科学・社会科学・情報科学の知識に基づいた社会的洞察力・状況分析能力・科学的思考能力を駆使して、行政、企業、NPOなどの各種組織における意思決定に具体的・実践的に関与できる高度専門職業人

<入学者に求める能力・資質>

【情報科学プログラム】

- 1 情報科学・データサイエンス分野の基礎について学部卒業程度の理解と基礎的なコミュニケーション能力を持つ人
- 2 情報科学・データサイエンス分野について強い探求心と主体的に自己研鑽する意欲を持っている人
- 3 情報科学・データサイエンス分野の新しい課題や科学技術の開拓に積極的・情熱的に取り組む意欲がある人
- 4 論理的で柔軟な思考能力と的確な判断能力を持っている人

【社会情報学プログラム】

- 1 社会情報学分野の基礎について学部卒業程度の理解と基礎的なコミュニケーション能力を持つ人
- 2 社会情報学分野について強い探求心と主体的に自己研鑽する意欲を持っている人
- 3 現代社会に氾濫する多種多様な情報を的確かつ選択的に把握し、それを主体的判断に基づいて加工し、新たな情報発信により情報社会に積極的に関わる意欲のある人
- 4 論理的で柔軟な思考能力と的確な判断能力を持っている人

<入学者選抜の基本方針>

本専攻では、上記の情報科学プログラム及び社会情報学プログラムの入学者に求める能力・資質1～4を持つ学生を選抜するために、以下の入試を実施します。それぞれの方法で見る能力・資質を番号で付記します。それらの結果を総合して可否を判断します。また、学修機会の拡大のため、10月入学の制度を設けています。

○一般入試、留学生入試

【情報科学プログラム】：学力検査（基礎科目及び専門科目）[能力・資質1]，書類審査及び面接[能力・資質1～4]

※書類審査ではTOEFL等の英語外部試験の成績の提出を求めます。

【社会情報学プログラム】

書類審査及び口頭試問を含む面接[能力・資質1～4]

○推薦入試，社会人入試：書類審査及び口頭試問を含む面接[能力・資質1～4]

1. 募集人員

プログラム名	募集人員
情報科学プログラム	概ね 60 名
社会情報学プログラム	

上記の募集人員は、推薦入試、夏期入試、冬期入試及び 2027 年 10 月入学入試の合格者数の合計です。

2. 入学の時期

2027 年 4 月 1 日

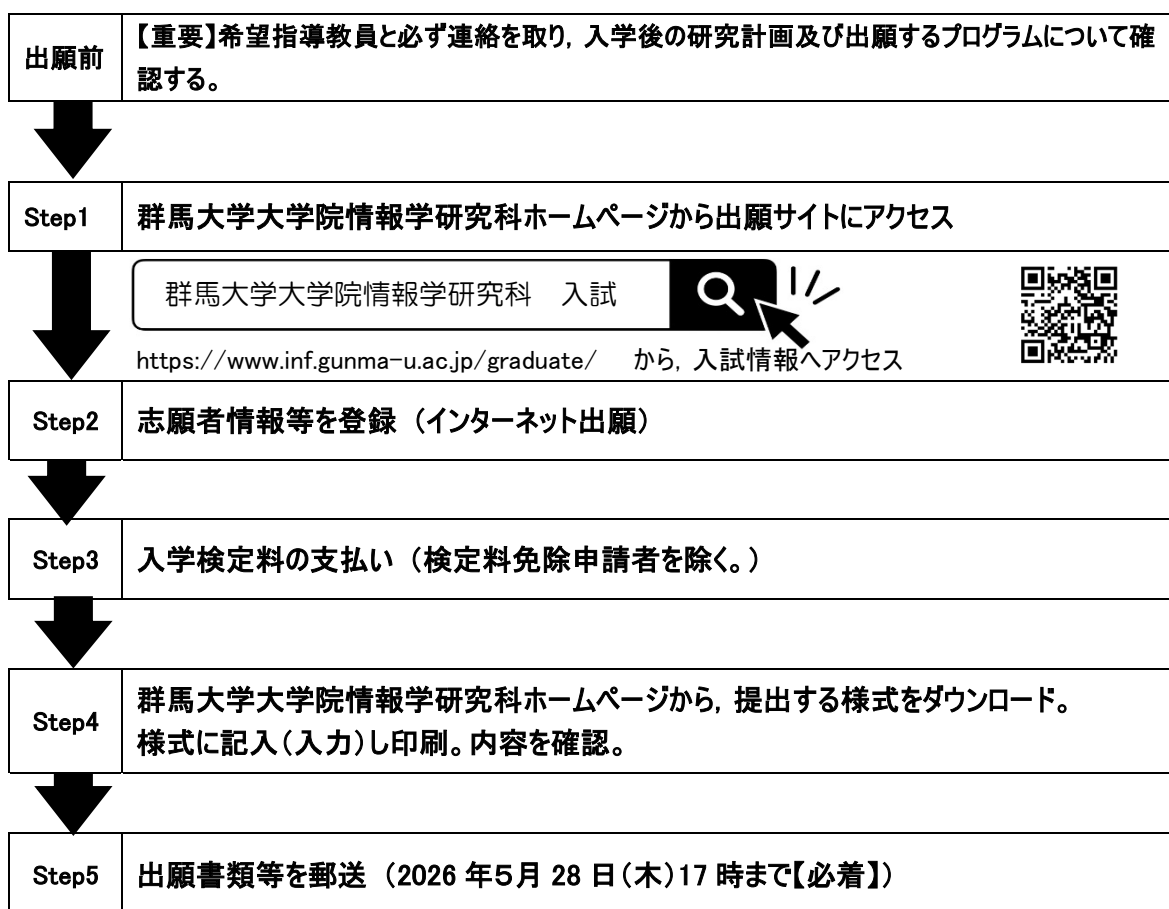
3. 出願資格及び出願要件

出願できる者は、日本の大学に在籍し、それぞれの分野の専門教育を受け、学業成績が優秀で、出身校の長が責任をもって推薦する者で、かつ合格した場合は入学することを確約できる者で、次の各項のいずれかに該当するものとします。

- (1) 大学を2027年3月卒業見込みの者
- (2) 高等専門学校で専攻科を2027年3月修了見込みの者で、学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により2027年3月末までに学士の学位を取得見込みの者

4. 出願手続

- (1) 出願の流れ



※1 メール受信設定でドメイン設定を行っている場合はメールが届かないことがありますので、ドメイン (@gunma-u.ac.jp 及び @ml.gunma-u.ac.jp) を受信設定してください。

※2 障害がある等でインターネット出願の利用が難しい方は、目次下部の「問合せ先」へ相談してください。

(2) 出願期間及び入学検定料納入期間

事 項	受 付 期 間
インターネット入力及び 入学検定料の支払い	2026年5月14日（木）8時30分から 2026年5月27日（水）12時まで
提出が必要な出願書類等の郵送	2026年5月14日（木）8時30分から 2026年5月28日（木）17時まで（必着）

[注意事項]

出願書類の郵送は、必ず「**簡易書留速達郵便**」としてください。

受付期間を過ぎた場合は受理しないので、郵便事情・郵送期間を十分考慮して早めに発送してください。

なお、出願書類の持参は認めません。

(3) 入学検定料支払の方法について

検定料 30,000 円

9頁「群馬大学大学院検定料払込方法」を参照の上、次のどちらかの方法により支払ってください。

なお、支払手数料は支払人の負担となりますので、留意してください。

・ **コンビニエンスストアでの支払い**

(パソコンやスマートフォン等のある環境でご利用ください。)

「Web サイトでの申し込み」は、**支払期間終了 30 分前まで**です。

支払後、レジにて受け取った「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付台紙」（様式3）の所定の欄に貼り付けてください。

・ **クレジットカードでの支払い**

(パソコンやスマートフォン等、プリンターのある環境でご利用下さい。)

支払後、「入学検定料・選考料 取扱明細書」を印刷し、「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付台紙」（様式3）の所定の欄に貼り付けてください。

(4) 入学検定料の返還について

既納の検定料は原則として返還しません。ただし、検定料を振り込み後、出願しなかった場合又は書類の不備等により受理されなかった場合、あるいは重複振り込み等所定の金額より多く振り込んだ場合は所定の手続により返還します。返還される金額は、振込手数料を差し引いた額となります。

返還に当たっては便せん等を用い、次のア～エを明記した「情報学研究科入学試験 検定料返還申出書」を作成して群馬大学財務部経理課へ速やかに郵送してください。

ア 返還申出の理由

イ 氏名（フリガナ）

ウ 郵便番号、現住所

エ 連絡先電話番号

「検定料返還申出書送付先」及び「問合せ先」

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学財務部経理課収入係 電話：027-220-7062

【検定料の免除について】

次の1～3いずれかに該当する志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。

＜検定料の免除の対象者＞

1. 東日本大震災に係る特別措置

(1) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者

- ① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者
- ② 学資負担者が死亡又は行方不明の者

(2) 学資負担者の居住地が、福島第一原子力発電所で発生した事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者

2. 風水害等の災害に係る特別措置

(1) 出願期限の日から前1年以内に発生した風水害等の災害において、災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者

- ① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者
- ② 学資負担者が死亡又は行方不明の者

(2) 本学が指定する風水害等の災害における「災害救助法適用地域」については、本学ホームページ（入試情報＞学費・奨学金）をご確認ください。

3. ウクライナ情勢を受けて避難した学生の教育研究活動の継続を支援するために受け入れた者に係る特別措置

(1) 今般のウクライナ情勢を受けて避難した学生で、学長が受け入れを許可した者

※特別措置を受ける場合には、日本が避難民として受け入れを許可したことが分かる書類及び群馬大学に在籍していることが分かる書類の添付が必要になります。

上記に該当される方は、当該「検定料免除申請書」を本学ホームページ（入試情報＞学費・奨学金）からダウンロードし、関係書類を添え出願書類に同封して申請してください。書類の提出に関する問合せ等は、平日8時30分から17時15分間に学務部学生受入課〔電話 027-220-7149〕まで連絡してください。群馬大学ホームページ (<https://www.gunma-u.ac.jp/>)

(6) 出願書類等

入学志願者は、出願書類等一覧表に記載の書類を所定の期日までに本学へ提出してください。

出願書類等に不足がある場合、出願を受け付けることができませんので、注意してください。

なお、出願に必要な様式は、本学情報学研究所ホームページ(<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/graduate/>)の入試サイトからダウンロードしてください。

(出願書類一覧表)

	出願書類等	提出該当者	摘 要
1	自動送信メール	出願者全員	インターネット出願ページの出願登録完了後の返信メールを印刷してください。
2	写真票（様式1）	出願者全員	様式1を用いて、「氏名」・「志望するプログラム名」を記入してください。 なお、以下の点に留意して提出ください。 【写真】は、上半身脱帽正面向きで出願前3ヶ月以内に単身で撮影した写真1枚（縦4cm×横3cm）を写真貼付欄に貼り付けてください。
3	卒業（修了）見込証明書	出願者全員	出身校の長等が作成したもの （原本であること。コピーは不可） 本学情報学部卒業見込みの者は、卒業見込証明書の提出は不要です。
4	成績証明書	出願者全員	出身校の長等が作成したもの （原本であること。コピーは不可） 本学情報学部卒業見込みの者は、成績証明書の提出は不要です。
5	学位授与申請予定証明書	出願資格(2)により出願する者	在籍学校長発行のもの （原本であること。コピーは不可）
6	推薦書（様式2）	出願者全員	出身校若しくは本学の学部等の長が作成し、 厳封されたもの。 本学情報学部卒業見込みの者は、推薦書の提出は不要です。
7	検定料収納証明書貼付台紙（様式3）	出願者全員	様式3に「検定料収納証明書」を貼り付けて提出してください。
8	志望理由書（様式4）	出願者全員	様式4に記載して、提出してください。
9	研究計画書（様式5）	情報科学プログラム（情報学部、共同教育学部からの推薦者以外の出願者）	様式5に記載して、提出してください。
10	研究計画書（様式6）	社会情報学プログラム（情報学部、共同教育学部からの推薦者以外の出願者）	様式6に記載して、提出してください。

【注意事項】

- (1) 出願書類受理後は、出願書類記載事項の変更は認めません。
また、出願書類及び検定料の返還はしません。
- (2) 出願書類等に虚偽又は不正行為が判明した場合は、出願及び入学許可を取り消すことがあります。また、入学後に判明した場合も同様とします。
- (3) 各証明書の姓が旧姓となっている場合は、現在の姓との関係を証明できる公的文書（戸籍抄本等）を添付してください。
- (4) 受験のための宿泊施設等の斡旋は行いません。

5. 出願書類等の提出先及び提出方法

(1) 提出封筒の準備

封筒及び必要書類を用意し、提出してください。

- ① 必ず、角形2号封筒（横 24 cm×縦 33.2 cm で A4 サイズの書類を折らずに入れることができる封筒）を使用してください。
- ② 26 頁の「封筒貼付用宛名ラベル」を印刷し、①の封筒の表(宛名)面に貼付してください。

(2) 提出が必要な出願書類等の封入

5 頁の「(6) 出願書類等」を確認し、必要な書類等を封入してください。

(3) 簡易書留速達便で送付

3 頁の「(2) 出願期間及び入学検定料納入期間」一覧表の「提出が必要な出願書類等の郵送」に記載の受付期間内に必着で、**簡易書留速達郵便**により発送してください。

6. 受験票について

インターネット出願により登録した内容と、本学に届いた出願書類の内容が確認され、出願が受理されると、2026年6月22日（月）までにメールにて受験票等（PDF）を送付します。その内の「受験票」を白色のA4用紙で印刷し、当日必ず持参してください。本学からの受験票の郵送はありません。

※「受験票」を印刷したら、受験者氏名等が出願した内容と相違ないか確認してください。万一記載に誤りがある場合や、2026年6月22日（月）を過ぎてもメールが届かない場合には、目次下部の「問合せ先」に照会してください。

7. 障害等のある入学志願者との事前相談について

障害等があつて、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ本学と相談してください。

(1) 相談の時期

2026年5月15日（金）までとしますが、なるべく早い時期に相談してください。

時期を過ぎてからの相談は、対応できない場合がありますので、ご留意ください。

(2) 相談の方法

相談書（様式は任意）に医師の診断書等必要書類を添付して提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談を行います。

(3) 連絡先については、目次下部の「問合せ先」を参照してください。

8. 選抜方法

入学者の選抜は、書類審査及び口頭試問を含む面接の結果を総合して合否を判断します。

9. 試験日程及び試験会場等

(1) 試験日

2026年7月6日（月）

(2) 試験会場

群馬大学情報学部（群馬県前橋市荒牧町4-2）※10頁「試験場までの交通案内」を参照。

集合場所等の詳細は、受験票（PDF）送付時にメールにて通知します。

(3) 試験時間

面接時刻等の詳細は、受験票（PDF）送付時にメールにて通知します。

(4) 受験上の注意事項

- ① 面接について、指定された時刻に特段の事情なく遅刻した場合は、面接を辞退したものとみなし失格とします。
- ② 試験の実施に関しての不測の事態（災害・事故等）が生じた場合は、情報学研究科ホームページ (<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/graduate/>) に掲載しますので、ご確認ください。
なお、**追試験は原則実施しません。**

10. 合格者発表

2026年7月30日（木）付けで、合格者本人に合格通知書を郵送（発表当日の発送）します。併せて、合格者の受験番号を情報学研究科ホームページ (<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/graduate/>) に、同日の13時以降から2026年8月6日（木）16時まで掲載します。大学構内での掲示等はありません。

なお、電話による合否確認には一切応じません。

11. 入学手続

入学手続日等については、別途通知します。

なお、事情により入学を辞退する場合は、速やかに目次下部の「問合せ先」に文書で届け出てください（様式自由）。

(1) 入学手続に必要な経費等

① 入学料 282,000円

（注）ア 入学時に入学料の改定が行われた場合は、改定金額を適用します。

イ 入学料の納入方法等は、別途連絡します。

ウ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

② 入学手続案内で指示するもの

(2) 入学後に必要な経費

授業料 半期分 267,900円 年額 535,800円

（注）ア 授業料に、入学時及び在学中改定が行われた場合は、改定金額を適用します。

イ 授業料の納入方法等は、別途連絡します。

ウ 授業料の納入については、希望により入学料の納入の際に、半期分又は年額を納入することができます。

エ 授業料を納入した入学手続完了者が、2027年3月31日（水）までに入学を辞退した場合は、納入した者の申し出により、所定の手続の上、納入した授業料相当額を返還します。

(3) 入学手続

入学手続日等については、別途通知します。

（注）各期日までに入学手続が完了しない場合は、入学辞退者として扱います。

12. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料を免除する制度があります。

また、所定の納期までに入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

申請を希望する者は、本学ホームページ (<https://www.gunma-u.ac.jp/>) の「入試情報＞学費・奨学金＞入学料免除・授業料免除支援に関するご案内」をご覧ください。

（問合せ先）学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

東日本大震災で罹災し学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料を免除する制度があります。申請を希望する者は、本学ホームページ (<https://www.gunma-u.ac.jp/>) の「入試情報＞学費・奨学金＞入学料免除・授業料免除支援に関するご案内」をご覧ください。

(問合せ先) 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

入試結果や学業成績などが特に優秀な学生(卓越した学生)に対して、本研究科からの推薦に基づき、授業料の免除をする制度があります。

(問合せ先) 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

13. 奨学金

学業・人物ともに優秀であって、経済的に授業料等の支弁が困難な学生に対し、修学を援助するために日本学生支援機構等による奨学金の貸与制度があります。

申請を希望する者は、本学ホームページ(<https://www.gunma-u.ac.jp/>)の「入試情報>学費・奨学金>奨学金のご案内」をご覧ください。

なお、日本学生支援機構の大学院奨学金には、在学採用(入学後に奨学金を申込み制度)及び予約採用(入学前に奨学金を予約申込みする制度)があります。

(問合せ先) 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

14. 教育方法の特例

本研究科では、大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく、昼夜開講制による教育を実施します。

なお、昼夜開講制の教育は、夜間及び土曜日、日曜日、祝日並びに夏季等休業期間に行うか、教育効果を失わない範囲で、授業の遠隔配信かオンデマンド配信を行います。教育効果上、対面が必要な場合も、できるだけの合理的配慮を行います。

15. 入学志願者の個人情報保護について

群馬大学では、提出された出願データ及び出願書類により取得した志願者の個人情報及び入学試験の実施により取得した受験者の個人情報について、「国立大学法人群馬大学個人情報管理規程」等に基づいて取扱い、次の目的以外には利用しません。

- 入学者選抜に関する業務(統計処理などの付随する業務を含む。)
- 入学手続完了者にあつては、入学者データとして入学後の就学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務
- 大学運営上の目的で行われる調査・研究に関する業務(入試の改善や志願動向の調査・分析、各種統計資料作成業務を含む。)

なお、当該個人情報を利用した調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理します。

また、本学の上記業務にあたり、一部の業務を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託することがあります。

16. 長期履修学生制度

職業を有している、家事・育児・介護等に従事するなどの事情で、学修及び研究指導を受ける時間に制約を受けるため、標準修業年限(本課程は2年)を超えて在学しなければ課程を修了することが困難な者に対して、本人の申請に基づいて審査し、標準修業年限を超える長期履修をあらかじめ認めることにより、計画的な課程の修了と学位の取得を可能にする制度です。

詳細については、目次下部の「問合せ先」に連絡してください。

17. 早期修了

1年以上の在学期間で修了要件を満たし、且つ、特に優れた業績を上げた者については、早期修了することが可能です。

群馬大学大学院 検定料払込方法

検定料はコンビニエンスストア「セブン-イレブン」「ローソン」「ミニストップ」「ファミリーマート」、クレジットカードで24時間いつでも払い込みが可能です。

事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。

<https://e-shiharai.net/>



※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込みを確定する前に、内容をよくご確認ください。

※番号取得後に入力ミスに気づいた場合はその番号では支払いを行わず、もう一度入力直して、新たな番号を取得してお支払いください。支払い期限内に代金を支払わなかった入力情報は、自動的にキャンセルされます。

※確定画面に表示される番号をメモしてください。

本学HPからもアクセスできます！



2 お支払い

各店舗へ

そのまま
カード決済手続へ

コンビニエンスストアでお支払い

- 検定料はATMでは振り込みできません。必ずレジでお支払いください。
- 店頭端末機の画面デザイン等は、予告なく変更される場合があります。

7 ELEVEN

【払込票番号 (13ケタ)】

●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。マルチコピー機は使用しません。

お支払い後、必ず「入学検定料・選考料取扱明細書」(チケット)を受け取ってください。

LAWSON MINI STOP

【お客様番号 (11ケタ)】
【確認番号 (4ケタ)】

Loppi へ

各種サービスメニュー

各種代金・インターネット受付 (紫のボタン)

各種代金お支払い

マルチペイメントサービス

【お客様番号】【確認番号】を入力

店頭端末機より出力される「申込券」(受付票)を持って、30分以内にレジでお支払いください。

お支払い後、必ず「入学検定料・選考料 取扱明細書」を受け取ってください。

FamilyMart

【お客様番号 (11ケタ)】
【確認番号 (4ケタ)】

マルチコピー機へ

代金支払い

番号入力画面に進む

【お客様番号】【確認番号】を入力

お支払い後、必ず「入学検定料・選考料 取扱明細書」を受け取ってください。

クレジットカードでお支払い

VISA **JCB**

※お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくても構いません。但し、「基本情報入力」画面では、必ず受験生本人の情報を入力してください。

Web申込みの際に、支払方法で「クレジットカード」を選択

カード情報を入力

全入力内容が表示されますので、正しければ「確定」を押す

お支払い完了です。E-支払いサイトの申込内容照会 (URL: <https://e-shiharai.net/>) にアクセスして下記の手順に従って、「収納証明書」を印刷してください。

3 出 願

【コンビニエンスストアでお支払いの場合】

「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、入学志願票の所定欄に貼る。



※「収納証明書」を糊付けする際には、糊本体の注意書きに「感熱感圧紙などを変色させる場合があります」と記載されている糊はご使用にならないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【クレジットカードでお支払いの場合】

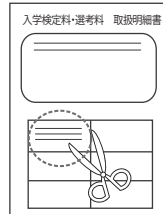
支払完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力して「収納証明書」を印刷。

「収納証明書」部分を切り取り、入学志願票の所定欄に貼り出願。

〈注意〉

プリンタのある環境が必要です。スマートフォンでお申込みされた方は、プリンタのある環境でご利用ください。

※クレジットカードでお支払いされた場合、「取扱金融機関出納印」は不要です。



⚠ 注意事項

- 携帯サイトの未成年者アクセス制限サービスは解除してご利用ください。
- 出願期間を入試要項等でご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日の「Webサイトでの申込み」は11:30まで、店頭端末機での操作は12:00までです。クレジットカードの場合、Webサイトでのお申込みと同時に支払いが完了します。12:00までにお手続きしてください。
- 「検定料払込」についてのお問い合わせは、コンビニ店頭ではお答えできません。詳しくはWebサイトをご確認ください。

- 一度お支払いされた検定料は返金できません。
- 検定料の他に事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- 「申込内容照会」から収納証明書が印刷できるのは、クレジットカードでお支払いされた場合に限りです。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。
- 取扱いコンビニ、支払方法は変更になる場合があります。変更された場合は、Webサイトにてご案内いたします。

試験場までの交通案内

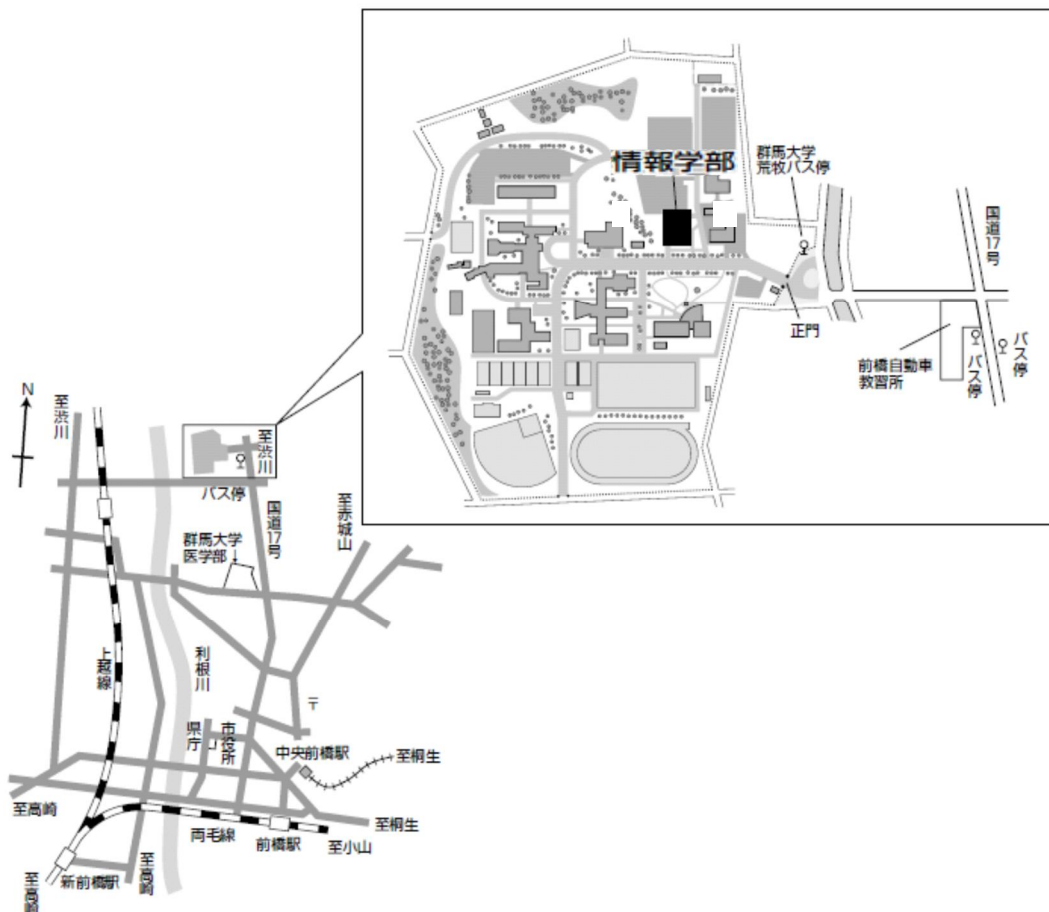
群馬大学情報学部

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2 電話：027-220-7412 情報学部教務係（情報学研究科担当）

J R 前橋駅及び渋川駅からのバス運行は下表のとおりです。

乗車場所	バス行先案内表示	下車停留所	所要時間	備 考
J R 両毛線 前橋駅北口 2番のりば	群馬大学荒牧経由渋川駅行 群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行 群馬大学荒牧経由小児医療センター行 群馬大学荒牧行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	渋川駅行 渋川市内循環渋川駅行 小児医療センター行	前橋自動車教習所前	約25分 徒歩10分	
J R 上越線 渋川駅前	群馬大学荒牧経由前橋駅行 渋川市内循環群馬大学荒牧経由前橋駅行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	前橋駅行 渋川市内循環前橋駅行	前橋自動車教習所前	約25分 徒歩10分	

※ 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕をもって試験場へお越しください。



群馬大学大学院情報学研究科博士前期課程について

本研究科では、学部で身に付けた情報の管理、加工、処理、分析などに関するデジタルスキルと自然科学、人文科学、社会科学との基礎的理解に基づいて、情報科学及び社会情報学に関するより高度な理解を持つとともに、各専門分野が他の分野や社会全体とどのような関係にあるのかについても理解を深め、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する高度なデジタル推進人材の育成を行います。

教育課程の概要

専門的な知識を培う各プログラムコア科目、先端的な研究活動を実践する情報学研究、地域の公共団体・企業との人材や知識の交流を促すためのインターンシップ科目や倫理観・コミュニケーション能力を養うとともに各専門と他分野との関係の理解を促す情報学研究セミナーを提供します。各プログラムでは育成する人材類型に対応した授業を提供します。

【情報科学プログラム】

情報科学・データサイエンスの専門知識に基づいて先端的な研究開発を担える、サイエンティフィックリサーチャー、ソフトウェア・セキュリティエンジニア、データサイエンティストを育成するため、各類型に要求される資質を以下のカリキュラムで涵養します。

【社会情報学プログラム】

ソーシャルアーキテクト、デザイナー、データサイエンティストの各人材類型に対応する人材を育成するため、各類型に要求される要素に対応する授業を提供します。

情報学研究科 カリキュラムツリー（各人材類型の主要科目）

2026/04/01



ディプロマポリシー

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

本研究科では、修了要件を満たした次のような者に修士（情報学）の学位を授与します。

- 1 所定の年限在籍し、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者
- 3 学術的能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力及び国際性を身に付けた者

＜学修成果の目標＞

【情報科学プログラム】

- 1 情報科学・データサイエンスに関する高度な知識を獲得し、俯瞰的視点から問題点を把握し、社会の課題を解決する能力を身に付けている。
- 2 情報科学・データサイエンスに関する専門的内容を論理的かつわかりやすく説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 3 優れた倫理観を備え、積極的かつ計画的に目標の達成に貢献することができる。
- 4 情報科学・データサイエンス分野の国際的な動向に貢献する意識を身に付けている。

【社会情報学プログラム】

- 1 社会情報学に関する高度な知識を獲得し、俯瞰的視点から問題点を把握し、課題を解決する方策を提案する能力を身に付けている。
- 2 社会情報学に関する専門的内容を論理的かつわかりやすく説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 3 優れた倫理観を備え、積極的かつ計画的に目標の達成に貢献することができる。
- 4 社会情報学分野の国際的な動向に貢献する意識を身に付けている。

修了要件

1. 大学院共通科目、研究科共通科目、情報科学コア科目、社会情報学コア科目及び特別研究から 30 単位以上を修得すること。
2. 情報学研究 12 単位、情報学研究セミナー 4 単位を修得すること。
3. 自身の所属するプログラムのコア科目から 8 単位以上修得すること。
4. 大学院共通科目、研究科共通科目について、必修科目を除き併せて 4 単位まで修了要件の修得単位に含むことができる。
5. 学位論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

専門性を確保するため、各自が所属するプログラムのコア科目を重点的に履修することを要求している。また、他プログラムのコア科目を修了要件に充てられるので、専門だけではなく別分野の知見も修得して視野を広げることを可能にしてある。

授与する学位の種類

修士（情報学）

特別研究を担当する教員の研究内容等一覧



【重要】出願前に指導希望教員と必ず連絡を取ってください。

【注意】下表は研究領域別の教員の研究内容等です。学生の受入れに当たっては、両プログラムの相談に応じる事が可能です。

詳細については、右のQRコードから研究科Webページにアクセスしてください。

【情報科学研究領域】

氏名	研究分野	教員の研究内容
天野 一幸	計算量理論 アルゴリズム 機械学習	<ul style="list-style-type: none"> 各種計算モデルにおける計算複雑さの解析 計算困難問題に対する効率的アルゴリズムの開発 数理的技法を用いた離散構造の解析
内田 満夫	社会医学 感染症の数理モデル 産業保健	<ul style="list-style-type: none"> 社会医学における衛生学公衆衛生学領域全般の研究 数理モデルを用いたインフルエンザ等の感染伝播様式の分析 働く人の健康関連データを用いた予防医学研究
奥 寛雅	ダイナミックイメージコントロール 高速画像処理 高速光学素子	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔するドローンやラリー中の球のような高速運動対象への動的プロジェクトンマッピング 次世代のヘッドマウントディスプレイのためのミリ秒高速体積型ディスプレイ 100kHz オーダの液体可変焦点レンズによる高速動的撮像技術
奥貫 圭一	都市・地域解析論 地理情報科学	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりや地域の問題に対するGISの応用に関する研究 地理的/空間的問題に対するデータ解析手法の研究 都市における立地と空間的行動に関する研究
加藤 毅	バイオインフォマティクス 機械学習 統計解析	<ul style="list-style-type: none"> 多種類を当てるAI学習技術の開発 AIの異分野への応用 安定したディープラーニング技術の開発
木森 義隆	数理形態学 深層学習 画像データ解析	<ul style="list-style-type: none"> 脊柱側弯症状スクリーニングシステムの開発 Mathematical morphologyに基づく生体分子3D構造の記述手法の開発 データ駆動型深層学習手法の開発：教師データの高品質化と少量データ学習法の構築
柴田 博仁	ユーザインターフェースデザイン 認知科学	<ul style="list-style-type: none"> メディアが業務や学習に与える影響を分析 インタラクティブシステムの構築と評価 読み書きを支援するICT環境、読書を促進させるICT環境の構築
嶋田 香	進化的計算 知識発見とデータマイニング	<ul style="list-style-type: none"> 個別性や説明性に注目した知識発見方法の開発 欠損値を含むデータに対応したデータマイニング手法の研究 生物界にみられる種々のメカニズムを参考にしたデータ分析手法の研究
地村 弘二	ヒトの認知神経科学 神経情報学 決定神経科学	<ul style="list-style-type: none"> 非侵襲脳機能画像法を用いたヒト脳の高次機能の研究 認知の実行制御を可能にする大脳・小脳の機構の研究 行動経済学に基づく意思決定の神経情報学的研究
鈴木 裕之	制御・システム工学 光工学 光量子科学	<ul style="list-style-type: none"> 非接触静脈認証システム 医用画像解析 シングルピクセルイメージング
照屋 保	数理解析学	<ul style="list-style-type: none"> C*環の指数理論のロホリン性の研究 有限次元ホップ代数の作用素環への作用の研究 因子環の束の研究

氏名	研究分野	教員の研究内容
中野 眞一	アルゴリズム 情報の可視化 離散最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・高速なアルゴリズムの設計 ・省メモリのアルゴリズムの設計 ・離散最適化アルゴリズムの設計
荒木 徹	グラフ理論 グラフアルゴリズム 組合せ最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ理論によるネットワーク構造の解析 ・グラフアルゴリズムの設計 ・組合せ最適化に対するヒューリスティック手法の開発
安藤 崇央	ソフトウェア工学 形式手法 スマートモビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・形式的な言語で記述されたシステム仕様が、システムが満たすべき性質を満足するかを検証する検証器の開発 ・UML や SysML などのモデリング言語を用いるモデルベース開発に、形式検証技術であるモデル検査技術を導入するための研究 ・さまざまな高度道路交通システムが互いに影響を及ぼし合う様子を確認するためのシミュレーション環境の構築
石井 基裕	代数学 表現論	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート系に付随する代数的構造（リー環や量子群など）の表現論 ・結晶基底の実現とその応用に関する研究
王 緒	効率性評価手法の理論開発と事例応用	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の評価手法よりも優れた新手法の開発 ・特殊なデータに応じた評価手法の開発 ・既存の評価手法を用いた応用研究
大下 達也	整数論	<ul style="list-style-type: none"> ・代数体の拡大塔に沿ったイデアル類群の漸近挙動の研究 ・岩澤理論の精密化の研究 ・数論アルゴリズムの観点からの代数曲線の研究
片山 佳代子	疫学 社会医学 医療統計	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する様々な指標を扱い科学的根拠に基づくがん対策の策定とその評価 ・大規模言語モデルを応用した SNS がんピアサポートの分析とその活用 ・臨床研究や政策における PPI (Patient and Public Involvement) の推進に関する研究
河西 憲一	待ち行列理論 通信トラヒック理論 情報通信システムの性能評価	<ul style="list-style-type: none"> ・待ち行列理論とその応用 ・マルコフ過程や拡散過程などの確率過程による応用研究 ・携帯電話網など情報通信ネットワークのモデル化と性能評価法
齋藤 翔太	情報理論とその機械学習への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデータの圧縮や通信に関する数学的な理論限界の解明 ・乱数生成や情報セキュリティに対する情報理論的研究 ・機械学習への情報理論の応用
高木 理	医療情報学 データプライバシー	<ul style="list-style-type: none"> ・病院情報システム、特に、医療データウェアハウスの構築および運用 ・データ利用に伴うプライバシーの保全などの安全性の確保 ・個人や社会の安全性を踏まえた社会全体におけるデータの利活用
千田 浩司	データプライバシー 暗号 セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析のためのプライバシー保護技術 ・データを伏せたまま計算できる秘密計算技術 ・AI セキュリティ・プライバシー
永野 清仁	最適化理論 機械学習 ネットワーク最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・数理最適化による問題解決 ・データ解析のための機械学習手法の研究 ・ネットワークなどの離散構造に関するアルゴリズム研究

【社会情報学研究領域】

氏名	研究分野	教員の研究内容
石川 真一	生態学 環境科学 植物生理学	<ul style="list-style-type: none"> ・土木工事など人為による地域の生物環境改変実態の解明 ・地球温暖化対策としての植物のCO2吸収量の推定 ・地域の自然再生における絶滅危惧植物の保全
井門 亮	言語学 語用論 関連性理論	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙概念の語用論的解釈に関する研究 ・関連性理論に基づいた修辭的表現の分析 ・人間の発話解釈のメカニズムに関する認知的研究
伊藤 賢一	理論社会学 情報社会論	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の進展と社会変容に関する社会（学）理論の探求 ・社会（学）理論の学説研究，社会学史 ・青少年のインターネット利用におけるリスクとその対策
岩井 淳	社会情報システム学 意思決定支援論	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名性保証に着目した意思決定支援システムの開発 ・社会的選択理論の情報学的展開 ・電子的なコミュニケーションとストレス対処
柿本 敏克	社会心理学 グループダイナミクス	<ul style="list-style-type: none"> ・集団内・集団間過程と「持続可能な開発」規範 ・仮想世界ゲームを用いた状況の現実感と集団内・集団間コミュニケーション研究 ・社会的アイデンティティと集団間関係に関する認知社会心理学研究
河島 基弘	社会学 比較文化論 環境倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と動物の関係についての歴史的・比較文化論的考察 ・メディアによる他文化表象の研究 ・新聞や放送などマスコミ業界の問題分析
小竹 裕人	公共政策論 政策分析	<ul style="list-style-type: none"> ・計量分析による政策選択 ・地域課題解決のための次世代モビリティの可能性 ・地理情報システムを使った政策情報分析
坂田 勝彦	地域社会学 福祉社会学 社会問題論	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本の開発主義と地域社会に関する生活史的研究 ・地域における福祉課題の調査・研究（特に障害福祉、高齢福祉） ・社会問題に関する質的研究法による調査・研究
杉山 学	オペレーションズ・リサーチ 経営科学 経営情報学	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価を行うための数理的意決定支援手法（DEA や AHP など） ・公共事業体や電力事業体などに対する経営効率分析 ・首都機能移転計画における候補地の総合評価
西村 尚之	森林生態学	<ul style="list-style-type: none"> ・森林生態系保全の基礎となる森林の成り立ちの解明 ・森林の長期的な変化と環境変動との関係の解析 ・森林生態系の種共存を解明する研究
西村 淑子	行政法 環境法	<ul style="list-style-type: none"> ・行政事件訴訟の要件 ・公害・環境訴訟及びADR ・ハンセン病行政の歴史的検証

氏名	研究分野	教員の研究内容
江良 亮	実証経済分析 開発経済学	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化と産業構造の変化 ・社会インフラと経済発展との関係 ・食関連産業と地域経済
大野 富彦	経営学 サービス・マネジメント 地域経営	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地経営組織とステークホルダーの関係性マネジメント ・地域企業のCSV (Creating Shared Value : 共通価値の創造) の展開 ・サービス産業 (特に旅館・ホテル) の組織マネジメント
金 幸弘	会計学 環境管理会計 CSR マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の財務・非財務データを用いた実証的研究 ・マネジメントシステムの設計と運用における会計情報の活用 ・環境・CSR マネジメントにおける会計手法の導入
坂本 和靖	計量経済学 労働経済学	<ul style="list-style-type: none"> ・養育期における家庭環境と子どものその後の成長との関係 ・ワーク・ライフ・バランス施策の政策評価 ・回答拒否による推計バイアスの計測
鳶島 修治	計量社会学 社会階層論 教育社会学	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査データの計量分析 ・社会階層と不平等に関する研究 ・教育達成過程の実証的研究
平田 知久	メディアの社会史 比較社会学 近現代思想	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア技術、情報、利用の展開と影響に関する歴史的/実証的研究 ・アジア諸国/諸都市のメディア利用に関する比較社会学的研究 ・メディアと思想/社会哲学の連関に関する研究
藤井 正希	憲法学	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳の概念、人権の歴史、憲法成立史などの憲法総論 ・平等権、自由権、社会権など憲法上の個別的な人権カタログの研究 ・立法、行政、司法、財政、地方自治などの憲法上の統治制度の研究
牧原 功	日本語学 言語学 日本語教育学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の統語論、語用論、意味論に関わる研究 ・日本語と他言語との対照研究 ・対照研究の知見に基づいた日本語習得に関わる研究
吉川 正人	言語学 英語学	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・日本語の構文に関する理論的・実証的研究 ・自然言語の文法に関する理論言語学的研究 ・言語の起源・進化に関する理論的研究
大和 啓子	日本語学 談話分析 日本語教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ポライトネスに関わる言語行動・表現研究 ・日本語を中心とした談話研究 ・非母語話者の日本語運用に関わる研究

授業科目の講義等の内容（2027年度開講予定）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
研究科共通科目	データ利用基礎論	データを研究利用する際の基本的な注意点、特に、プライバシーの保護を始めとする倫理的な配慮に関する課題点や方法論について学修する。特に、医療情報システム上のデータを研究利用する場合をユースケースとして取り上げ、医療情報システム上のデータが如何にして蓄積されるのかを踏まえた上で、データの研究利用に際する法、ガイドライン及びプライバシー保護に関わる技術について学修する。
	量的調査技法	社会調査（量的調査）を企画・設計する上で必要となる調査デザイン、サンプリング、調査票の作成等に関する内容について学修する。また、社会学をはじめとする人文社会科学分野の実証研究におけるデータアーカイブの活用方法を学ぶとともに、実際に社会調査データの二次分析を行いながら、統計解析ソフトを用いたデータ加工や基礎的な計量分析の方法を修得することを目指す。
	社会起業家特論Ⅰ	ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の意義や世界各国における発展の歴史や現状を学ぶとともに、それと密接に関わるNPOの設立方法やマネジメントについて学生は理解を深める。（本講義は、野村證券株式会社高崎支店で行います。）
	社会起業家特論Ⅱ	事業理念や事業アイデアをビジネスプランに結実させるプロセスに習熟するとともに、実際に自らのビジネスプランを策定してプレゼンテーションを学生は行う。アクティブ・ラーニング形式で講義を行う。
	先端応用情報学特講A	群馬県内の主要な水害対策地（八ッ場ダム、渡良瀬遊水池、草木ダムなど）の現地で実施されている具体的な対策（工事、水位調節など）及びそれらによって引き起こされている環境問題の現状を、配付資料を用いた事前学修、現地視察・野外授業によって理解する。そのうえで、環境保全と防災の両立方法について、グループディスカッションによって立案を試行する。 開催地及び開催日程は受講生と相談の上決定する。
	先端応用情報学特講B	群馬県内の自然保護地域（高崎市榛名公園沼ノ原、沼田市玉原高原、藤岡市チノー・ビオトープフォレストなど）の現地で国連SDGsに基づいて実施されている地域保全対策を、配付資料を用いた事前学修、現地視察・野外授業によって理解する。そのうえで、今後SDGsの達成のために必須とされている「グローバル・パートナーシップ」の構築方法について、グループディスカッションによって立案を試行する。 開催地及び開催日程は受講生と相談の上決定する。
	先端応用情報学特講C	企業が行う環境保全活動は、COP10、SDGsなどの国際的動向を踏まえて「生物多様性の保全」を新たな柱として、企業活動のサプライチェーン・バリューチェーンにおける生物多様性保全への配慮が普通化しつつある。本講では群馬県内で企業がその敷地内で実施している「生物多様性の保全」活動の現地（藤岡市；チノー・ビオトープフォレスト、明和町；アドバンテスト・ビオトープなど）において、配付資料を用いた事前学修、現地視察・野外授業によって「生物多様性の保全」の現状を理解する。そのうえで、今後「生物多様性の保全」のために必須とされている「生物多様性民間参画パートナーシップ」及び「生物多様性民間参画グローバルプラットフォーム」について、グループディスカッションによって参画方法を立案する。
	先端応用情報学特講D	群馬県は「ダム県」であり、南関東を水害から護り同時に利水を行うため、多くの巨大ダムが建設された。その最後に完成した八ッ場ダムは、1999年に施行された改正河川法以前に建設計画が決定されたが、「時のアセス」の方針により、環境アセスメントを実施し、管理の目的に「環境保全」が盛り込まれている。本講では八ッ場ダムの現地で実施されている具体的な対策（工事、水位調節など）及びそれらによって引き起こされている環境問題の現状を、配付資料を用いた事前学修、現地視察・野外授業によって理解する。そのうえで、環境保全と防災の両立方法について、グループディスカッションによって立案を試行する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
研究科共通科目	先端応用情報学特講 E	「持続可能な開発目標 (SDGs)」と「With & Post コロナ」の観点から持続可能な地域活性化のあり方を、特に、自治体の役割と機能に焦点を当てながら考える。開講は5月～7月の土曜集中開講とし、産学官関係者等との対話を通して理論的かつ実践的に考察する。
	先端応用情報学特講 F	産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル企業や地域が提供する2週間のインターンシップに参加する。インターンシップを通して、群馬で暮らしながら世界規模の仕事を展開するということの方策とその意味を考察し、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。
	先端応用情報学特講 G	「持続可能な開発目標 (SDGs)」と「With & Post コロナ」の観点から持続可能な地域活性化のあり方を、特に、企業の役割と機能に焦点を当てながら考える。開講は5月～7月の土曜集中開講とし、産学官関係者等との対話を通して理論的かつ実践的に考察する。
	先端応用情報学特講 H	産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル企業や地域が提供する2週間のインターンシップに参加する。インターンシップをとおして、SDGs、ESG投資、With&After 新型コロナ対策など、群馬の産業の持続可能性を高める人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。
	先端応用情報学特講 I	(日留合同講義) 日本で展開する「就職活動」を文化的・社会的な事象と捉え、その過程で用いられる、就職活動に特有の日本語(「就職日本語」)を社会言語的な視点から分析することで、就職活動の構造と機能を考察する。
	先端応用情報学特講 J	企業で実施するインターンシップで必要となるコミュニケーションに関連する情報を収集し、インターンシップで使用される特殊な用語、コミュニケーションの様式、その背景にある文化を理解できるようになる。その結果、文化の壁・言葉の壁を低くして、インターンシップを円滑に進めることができるようにする。
	現代数学特論 A	フーリエ解析と関数解析は、今日では数学のみならず情報理論や物理学など数理学の多くの分野で利用され重要な役割をはたしている。この講義ではフーリエ解析と関数解析の2つを学ぶことにより、直行多項式、ヒルベルト空間上の線形作用素、スペクトル分解などの基礎を系統的に理解する。
	現代数学特論 B	群の表現論について学ぶ。群とはいくつかの基本的性質を満たす二項演算を備えた集合であるが、これは対称性を数学的に捉えた構造であると考えることができる。群の表現とは、群に内在する構造を、ものの対称性(特に、ベクトル空間上の線型変換)として実現する操作のことをいう。本講義では、指標の理論を中心に、複素数体上の有限群の表現論の基礎について解説する。
	現代数学特論 C	楕円曲線は「群」の構造をもつ代数曲線であり、現代の整数論及び数論幾何学で盛んに研究されている、重要な研究対象である。また、楕円曲線は素数判定アルゴリズムや暗号などにも用いられており、情報学の分野でも重要な対象である。この授業では有理数体上の話題(Nagell-Lutzの定理、Mordell-Weilの定理等)と有限体上の話題(Hasseの定理、ねじれ有理点と還元写像等)を中心に楕円曲線の基礎について学ぶ。更に時間が許せば、暗号理論等への楕円曲線の応用や、BSD予想等の楕円曲線にまつわる未解決問題についても触れる。
	国際インターンシップ I	海外の技術者・研究者との英語による研究討論の能力を養うために、国際会議あるいはこれに準じる場所において、英語による研究発表、海外の研究者との討論・交流等を行い、英語でコミュニケーションする能力の実践的訓練を行う。訓練終了後成果報告書を作成させることで訓練の成果をより確かなものにする。
国際インターンシップ II	海外の技術者・研究者との英語による研究討論の能力を養うために、約1ヶ月以上に渡って海外の研究機関やこれに準ずる場所において、英語による研究活動や発表、海外の研究者との討論・交流等を行い、先端的な学術領域の内容を英語でコミュニケーションする能力の実践的訓練を行う。訓練終了後成果報告書を作成させることで訓練の成果をより確かなものにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
研究科共通科目	インターンシップ I	修得した学問を、企業において実践的に活用する能力を培うために、企業におけるインターンシップを行う。事前のガイダンスの後、インターンシップを行い、発表会を開催しそこの発表・討論を経験させる。
	インターンシップ II	修得した学問を、企業において実践的に活用する能力を培うために、事前教育を含めて3ヶ月程度の長期間の企業におけるインターンシップを行う。事前教育としては、企業におけるマナー、知的財産、安全管理について教育する。加えて、派遣先の企業及びそこの職務に応じた周辺分野の教育も行う。派遣先企業の担当者と協議を基に経過報告書を作成することを義務づけ、最終的な報告書を提出させ、最後に発表会を開催しそこの発表・討論を経験させる。
	情報学研究セミナー	情報科学と社会情報学にまたがる領域に関して、各研究分野の様々なトピックに関する発表と議論を行い、各自の研究テーマと社会の多様な問題や側面との理解を促し、幅広い視野を涵養する。また、研究活動の基礎に関する指導も実施し、研究・社会活動に必要な倫理観を涵養するとともに、学術的文章の執筆や発表方法に関するスキルも修得する。
情報科学コア科目	離散構造特論	グラフ理論は情報科学の基礎となる数学である。この講義では、学部の離散数学1と離散数学2を基礎として、グラフ理論の基礎的な理論を講義する。特に、グラフ、有向グラフ、木、距離、連結度、マッチング、彩色などの概念や性質について講義する。
	アルゴリズム論	学部のアルゴリズム1及び2を基礎に、様々なアルゴリズムの設計と評価について解説する。キーワード：NP完全、前処理、ならし解析、計算幾何、近似アルゴリズム、平面グラフ、ストリーミングアルゴリズムなど。
	数理論理学	計算理論と記号論理学及びそれらの関係に関する話題を講義する。特に、学部の数理論理学、プログラミング言語及びソフトウェア工学を基礎にして、命題論理の意味論と構文論、ラムダ計算に基づく計算理論、およびプログラムの型と論理式とのカーリー・ハワード同型対応について学ぶ。
	計算量特論	日常遭遇する様々な情報処理や計算の問題に対して、その本質的な困難さ、すなわち、その問題を解くのに必要とする時間やメモリ量を明らかにすることを目指す分野である、計算量理論について講義する。特に、種々の計算モデルと計算量クラス、P vs NP 問題、並列計算量などについて学ぶ。関連する最近の研究結果の解説も併せて行う。
	関数解析学特論	微分方程式や変分問題、数値解析を学ぶ上での基礎理論である関数解析学の講義を行う。バナッハ空間やヒルベルト空間における完備性やコンパクト性について学び、その応用として縮小写像の原理、射影定理および Riesz の表現定理とその変分的特徴付け及びこれらの応用について学ぶ。
	先端プログラミング言語特論	情報技術の習得と情報科学の理解にはソフトウェア開発を避けて通ることはできず、その基盤となるプログラミング言語への理解と習得が不可欠である。本講義では、先端的なプログラミング言語の理論と応用を扱う。
	量子計算理論	現在のコンピュータにとって困難な問題を高速に解く量子コンピュータについて、理論計算機科学の立場から解説する。具体的には、量子コンピュータの標準的な数理モデルである量子回路を導入し、素因数分解アルゴリズムに代表される様々な高速量子アルゴリズムについて説明する。
情報理論特論	レート歪み理論、情報理論と統計学、ユニバーサル情報源符号について講義する。レート歪み理論では、歪みを許容したもとの圧縮率の理論限界を紹介する。情報理論と統計学では、タイプ理論、大偏差理論、仮説検定の誤り率解析などを学ぶ。ユニバーサル情報源符号では、LZ 符号とその最適性などを解説する。	

区分	科目	講義等の内容	講義等の内容
情報科学コア科目	数理情報学特論		グラフやネットワークは、対象物間の相互結合を表現する概念である。インターネット、人間関係、交通網などは、ネットワーク情報として数学的にとらえることができる。社会における様々な現象をネットワークとして科学的に扱う学問がネットワーク科学である。この授業では、ネットワーク科学についてその数学的基礎を学修するとともに、ネットワーク分析手法に関する演習を通じて理解を深める。
	ソフトウェア工学特論		形式手法、特に時相論理をもちいた形式検証技術の基礎理論について講義する。具体的には、オートマトン、計算木論理、命題線形時相論理、モデル検査などの基礎理論を解説する。
	情報ネットワーク特論		基本的なネットワークの利用及び仕組みを理解していることを前提に、現代の社会で欠くことのできない情報ネットワークについて、その最新の技術の紹介とサービスを中心に講義をする。IPv6 や移動体通信（ユビキタス）などの新しいネットワークの仕組みと構築技術及びその上でなされる各種サービスについて解説する。また、ネットワークの管理・運用、最近の e-service として、電子商取引やコミュニケーション手段としての Web サービスについて説明する。
	情報セキュリティ特論		今後の普及が見込まれる先端セキュリティ技術についてプログラミングも交えながら学ぶ。特に暗号基礎理論・暗号アルゴリズム・暗号高速実装技術及び最新のプライバシー保護技術を主テーマとする。
	インタラクションデザイン特論		道具のデザイン、特にソフトウェアシステムのデザインの方法論を学ぶ。人間中心設計の考え方、人間の認知特性、支援対象の分析、初期システムのデザインと構築、ユーザビリティ評価などを学ぶ。最終的には、デザインの実践を演習として行う。
	人間情報学特論		バーチャルリアリティ(VR)やヒューマンコンピュータインタフェース・インタラクションという学際的領域について、学術的な基礎とその応用、さらには先端的な研究内容について講義する。
	画像情報工学		画像復元の数理的な基礎になっているフーリエ変換と、画像による3次元解析の基礎になっている射影幾何学を、それぞれの応用に密着した形で具体的に講義する。
	画像システム特論		画像システムを構成する二つの要素である撮像用光学系と画像処理系について基礎を講述するとともに、コンピュータショナルフォトグラフィに代表される、光学系の性質を積極的に利用する画像システムについて概説する。
	パターン認識特論		多くのパターン認識のアルゴリズムは関数の最適化に基づいている。本講義では、最適化技術の一つである凸解析を中心に、機械学習に必要な数学の基礎を解説する。
	情報システム工学		確率統計1・2及び情報ネットワークで修得した内容を発展させるため、確率過程とその応用について学ぶ。工学上の問題を確率過程でモデル化する手法を理解するため、計算機システムの性能評価法や確率的アルゴリズムなど、確率過程の応用を学ぶ。
	データ解析特論		多変量のデータ解析の方法論に関し概観し、さらに、重回帰分析、判別分析、主成分分析の基礎的なデータ解析方法について、その原理を応用例に触れながら述べる。多変量データの基本的な取り扱い方と、探索型と検証型の主なデータ分析手法について基礎的な考え方を理解し、これらを利用できるようにすることを目標とする。
	データマイニング特論		データ科学と知能情報学の融合分野としてのデータマイニングについて、その代表的な手法、応用事例、大規模データへの応用について学ぶ。データマイニングとは何か、知っておくべきことは何かについての基礎とともに、統計的学習手法、機械学習との関係を踏まえてデータマイニングの代表的手法を学ぶ。また、社会健康医学やソーシャルネットワークなどの多様な分野への応用例、大規模データからのマイニングと知識発見などの技術動向、最近のトピックを解説する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
情報科学コア科目	疫学・医療統計特論	現在、我が国ではゲノム解析、バイオインフォマティクスが進むにつれデータサイエンスの力量を兼ね備えた疫学者、生物統計家や医療関係職の人材がますます重要となっている。そこで情報学の知識を持ち医学系で活躍したい人材のために疫学の体系的理解と技能の修得、そして地域の医療計画に必要な様々な解析モデル・スキルの修得を通じて実社会でどのように実装していくのか等の学修を行う。特にビックデータの1つであるがん登録データの利活用を通じてがん対策、科学的エビデンスに基づくがん情報の効果的な発信の在り方までを扱う。
	神経計算論	神経科学に数理・計算理論を導入することによって、どのような脳機構が解明されてきているのかを解説する。機械学習、ニューラルネットワークモデル、状態空間モデル、ドリフト拡散モデルなどを例にして、神経と行動を関連づける数理的枠組みを理解し、脳における計算原理がどのように探索されているかを知る。
	知識情報処理特論	多くの機械学習のアルゴリズムは関数の最適化に基づいている。本講義では、最適化理論の一つである双対理論を中心に、機械学習に必要な数学の基礎を解説する。
	地理情報科学特論	現代社会が抱える諸問題の多くは地理的事象であり、地理的な情報を適切に扱うことによって問題の解決に結びつくこともある。この授業では、地理的な情報にまつわる理論や応用について学び、地理的な情報を介して諸問題を考える力を身に付けることを目的とする。受講者それぞれが地理的事象を対象とする問題を取り上げて研究を進め、その過程を報告する中でディスカッションを重ね、地理的事象を考える力を養う。
	数理モデリング特論	現実社会における複雑なシステムを理解・分析するためには、数理的な問題として定式化するモデリングの構築が重要になる。現実の問題を数理モデルに定式化し、それを解くことにより、問題解決や意思決定に役に立つ情報を提供できる。そこで、本講義では、実用的な問題解決や意思決定の手法である数理計画法の基礎と応用について学ぶ。具体的には、まず線形計画問題から始め、続いてネットワーク計画問題を取り上げる。また、数理計画法の応用範囲の一つとして、「評価と意思決定」をテーマとした分析方法も触れ、さまざまな状況において数理計画法がどのように現実社会の問題に応用されているかを学ぶ。これにより、現実の問題を数理モデルとして表現する方法を身につけることを目指す。
	意思決定科学特論	意思決定科学に関する近年の研究成果について学ぶ。また、情報通信技術（ICT）を用いた意思決定支援について学ぶ。現実の意思決定過程についての深い洞察力を身に付けるとともに、ICTを用いたその改善法を検討する講義である。研究成果としては、選好にもとづく意思決定過程としての個人的意思決定と集成的意思決定に関する理論と方法を検討する。数理的・実験的・情報处理的なアプローチによる研究成果を包括的に議論する。
	オペレーションズ・リサーチ特論	社会の情報化が進むにつれ、ますます多種多様な情報があふれている。適正な意思決定を下すためにも、また、意思決定の根拠を他の人達に理解してもらうためにも、あふれる情報の中から、重要な情報を導き出し、決定を支援するための科学的なアプローチは必要であり、かつ、重要である。本講義では、科学的な問題解決の考え方や道具としてのオペレーションズ・リサーチや経営科学におけるモデルを用いた考え方や方法をより深く修得することを目的とする。そのために、数理モデルによる問題の定式化、モデルの最適化、得られた解決案の実施と改善の過程について詳しく論ずる。
	社会シミュレーション特論	動的かつ不確定な要因が複雑にからみあう、より複合的な社会現象や社会問題を解明／解決するために有効なモデル化とシミュレーション技法について講義する。受講生毎にテーマを決めて、モデリング演習と計算機を用いたシミュレーション開発の演習をおこない、モデル化の考え方やシミュレーション技法の体得を目指す。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
社会情報学コア科目	比較社会情報学特論	<p>これまで、情報技術の展開に沿うかたちで、情報（化）社会に関する多様な言説や理論が生み出され、ほどなくそれらが消えていくという経緯が繰り返されてきた。この講義では、これまでに提示された情報（化）社会に関する言説や理論を概観しながら、その問題点を検討する。その上で、現実の情報メディア技術の利用とその技術・社会環境に着目し、各国／各社会／各地域におけるメディア利用の固有性を担保しながら現代の情報社会の分析を行うための理論的視座として、比較社会情報学というアイデアを提示し、その確立に向けた基礎となる文献を読解する。</p> <p>他方で、情報技術と社会の現在を捉える理論の確立を目指すこの講義は、まずもっては受講生の情報メディア技術の利用にその応用可能性が求められてしかるべきである。このような意味で、受講生には講義内の文献の読解やディスカッションへの積極的な参加が求められる。</p>
	理論社会学特論	<p>この授業は、現代の社会学理論を踏まえながら情報社会の諸問題を読み解いていくことを目的とする。近代社会の自己認識として生まれた社会学理論は社会に共有される規範的構造と現実の重なりやズレを読み解いてきたが、こうした社会的な考え方に親しみ、各自の研究に活かすことができるようになることも同時に目指すものである。授業は教員による一方的な講義ではなく、受講生も社会学理論の読解やディスカッションに積極的に参加することが期待される。社会学理論に関するテキストを用いる予定であるが、テキストの選出にあたっては受講生の意見も参照する。</p>
	コミュニケーション特論	<p>人にとってのコミュニケーション活動は様々な観点から捉えることができる。これはちょうど人の在り方に対する認識自体が多面的・多層的であり得るのと同じであり、それはコミュニケーション活動が人の存在にとって根元的意味を持つからだと考えられる。本講義ではこうした人のコミュニケーション活動を、主として社会心理学的な観点から検討していく。まずコミュニケーションに関するいくつかのモデルを示した後、集団間関係研究及び文化心理学研究の2領域を中心に、できるだけ具体的な問題を取り上げつつ、あわせて理論的問題についても検討を加える。受講者の積極的な取り組みが望まれる。</p>
	言語メディア特論	<p>古代の日本にあつては、社会の様々な情報は、口頭での伝承、あるいは真名字（漢字）、片仮名・平仮名など、様々な立場を反映した文字表記を用いた文献として後世に伝えられてきた。</p> <p>この講義では、おもに文学作品や貴族日記・記録などの古典的文献の解読を通して、その背景にある歴史や伝承などの様々な「情報」を抽出する。文字表記の問題、社会的背景や地域的問題などを視野に入れた文化論的な視点から検討を加え、古代社会の諸相について考察する。</p>
	言語コミュニケーション特論	<p>言語を媒介としたコミュニケーションについて、語用論を中心に言語学の観点から検討し、発話が解釈される過程と、その過程を支配している原理について考える。まず文献の輪読を通して、含意、会話の公理、協調の原理、発話行為、ボライトネスといった語用論の基礎概念を確認した上で、人間の発話解釈能力の解明を目指したモデルである関連性理論について学ぶ。そして具体的な言語表現の語用論的な分析を通して、ことばの意味、発話によって伝達された明示的・非明示的意味の解釈、ことばの意味と伝達内容のギャップ、人間のコミュニケーション能力などについて考察する。</p>
	言語科学特論	<p>「ことばの科学」としての言語学やその周辺領域に関する専門書や研究論文を読みその意義や妥当性について議論することで、ことばを科学的に分析するための概念装置や方法論について見識を深める。またそのようにして得た知識を利用して実際に言語現象の分析を行い、得られた結果についての考察を通してことばに対する洞察力を養う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
社会情報学コア科目	言語分析特論	言語を分析し研究を行うにあたって必要となる、言語学の基礎的な知識を身に付けることを目的とする。分析対象とする言語は日本語とし、特に統語論、意味論、語用論の側面からアプローチを行う。言語の様々な側面について、具体的な例をもとに検討し、言語がどのように構成され運用されているのかを検討する。
	日本語コミュニケーション研究特論	本講義では、日本語学習者の誤用あるいは不自然に感じられる日本語使用を手掛かりに、日本語コミュニケーションの特徴を主に語用論的な観点から明らかにすることを目的とする。まずは、文献講読を通じて語用論についての必要な基礎知識を得たうえで、実際に日本語学習者の日本語使用を観察、日本語学習者の日本語運用上の困難点とその要因について分析、考察し、日本語コミュニケーションの特徴を捉えていく。
	地域日本語教育特論	本講義は、日本語教育の現場の視察を通して、教育の方法や指導上の困難点に気づき、自らの実践や研究を進展させることを目的とする。国内有数の外国人集住地域である群馬県の特性、日本語指導が必要な児童生徒の増加を念頭に、地域の現状を把握し、日本語指導者にどのような対応が求められているかを検討しつつ、求められる専門的な知識や技能を学ぶ。集中授業として実施し、大学での講義と、日本語教育の現場の観察を交えて進め、5回の講義を予定している。
	現代文化特論	社会学や人類学、メディア論の知見を援用して、現代文化の様々な問題を考察する。テーマとしては「ソフト・パワー」「文化帝国主義」「グローバリゼーション」「(メディア) ナショナリズム」などが考えられる。たとえば、強制や誘導ではなく文化的魅力によって、こちらが望むことを相手に自発的にさせる力である「ソフト・パワー」を取り上げる場合、日本のマンガやアニメ、映画が世界でどのように受容され、それが日本のイメージや経済的利益の向上にどのように役立っているのかを見る。受講者の発表を基にした議論に重きを置きたい。
	倫理学特論	「生殖＝再生産」(reproduction) は、極めて個人的実践と見なされると同時に、最も公的・政治的な実践である。本授業では、生殖＝再生産という実践を、生命倫理学、フェミニスト倫理学の視角から多面的に検討することを目指す。具体的には、「性と生殖に関わる健康と権利」という概念が普及するに至った歴史や、女性の生殖の自律を求める日本と世界の運動史を授業の前半では取り扱う。他方で授業の後半では、障害のある人々やクィアの人々など、社会のマイノリティたちが被ってきた政策的な不妊化について、同じく日本と世界の状況を検討する。授業形態としては、講義を中心としつつ、受講生の関心に合わせてディスカッションを行う。
	地域社会学特論	本授業では、地域社会学にかかわる基礎知識を学ぶとともに、それらをもとに具体的な地域社会の課題について分析する力を身に付けることを目的とする。具体的には、「戦後日本の開発主義」をテーマに、それが農山村や島嶼部など各地でいかなるものとして経験されてきたかについて検討する。そして、現代の日本の地域社会をめぐる諸課題について、経験的・実証的に考えていく作業を行う。
	公法特論	公法とは、主として国家と国民との関係を規律した法のことであり、最も狭い意味では憲法と行政法とを指す。本講義では、国家の根本法であり最高法規でもある憲法の理解を第一の目標とする。その際には、学部レベルの憲法の基礎知識を再確認するとともに、情報学研究科の講義であることから、特に“マスメディアと憲法”について深く考察していく。教科書としては『マスメディア規制の憲法理論—「市民のためのマスメディア」の実現』(敬文堂)を使用する。また、生きた法とも言える判例(とりわけ最高裁判例)も十分に活用していきたい。大学院の講義は単なる知識の伝達であってはならず、新しいものを生み出す創造力の涵養の場でなければならない。一生の財産とできる創造力の修得が本講義の最終目標である。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
社会情報学コア科目	知的財産法特論	知的財産法の正当化根拠を踏まえつつ、各知的財産法（不正競争防止法、商標法、特許法、意匠法、著作権法）の概要を確認する。特にデザイン保護にかかわる分野に重点を置き、昨今議論が盛んになっているフィジカルとデジタルを交錯するデザイン保護のあり方等も取り上げる予定である。
	行政学特論	行政学の研究史を踏まえつつ、この分野におけるいくつかの有力な研究文献を集中的にとりあげる。講義は研究文献が(a)行政学の理論・モデル・方法をどのように扱っているか、(b)事実・データ(実証)と理論の関係をどのように捉えているかについて精査することを目的とし、更に(c)研究により得られた知見は(政府の)実務にどのように適用され得るかについて検討したい。講義でとりあげる研究文献は電子シラバスにおいて指示する。
	行政法特論	行政法に関する基礎的知識を確認するとともに、行政法総論と行政救済法の分野について理解を深める。行政法の総論では、法律による行政の原理、行政裁量、行政行為、行政立法、行政手続、情報公開・個人情報保護について、行政救済法では、行政事件訴訟、国家賠償、行政不服審査についてとりあげる。本授業では、行政法に関する個別のテーマについて、受講生が、調査・研究し、発表した内容を踏まえて、議論する。
	グローバル地域創生特論	少子高齢化による社会構造の変化のなかで、「地域」はどうあるべきかを理論的・方法的に学び、持続可能な地域のあり方への方向性を示し、実践できる人材が求められている。本講義では、人口減少現象の比較社会的探究と、その現象に地域活性化の視点から対応する実践を創出する方策を、アクションリサーチを通して模索する。アクションリサーチで具体的な「地域」で実践活動を行う予定で、講義時に日程調整を行う。
	国際関係特論	本講義では、まず国際関係論の理論やアプローチ(接近法)など基礎的な知識を概説し、国際政治の見方を提示する。次に、テキストを購読しながら国際平和観と安全保障観の変遷と転換について考察する。これまでの国際社会は、平和が必ずしも人々の安全を保障するものではなかった。本講義を通じ、国際平和と人間の安全の両立を目指す平和創造の方法について検討する。国際関係論の基礎的知識が身に付いてきたら、講義の冒頭、時事的な国際問題を取り上げ、報告会を行うことも予定している。
	公共システム特論	政策を対象分野として、まずリサーチクエスションの立て方から分析手法まで基礎的な部分を扱う。次に、座学だけではなく収集した自治体データを用いて自治体が行っている個別政策の有効性(たとえば子育て政策)を比較するために定量的に分析する手法を示す。分析対象は政策であるが、分析手法は政策研究に限らず汎用がきくものである。さらに、政策の現実面を知ってもらうために最近の政策研究の各論について扱う。昨年は政策とナッジの関係について、ナッジで政府が国民に介入するべきなのかについて扱っている。
	企業・産業分析スキル特論	「金融ビジネスの基礎から実際まで」のサブテーマのもと、市民向け大学院「サテライト高崎」で開講される科目である。株式、債権、投資信託等の金融商品、不動産、国際商品(貴金属・農産物・工業製品等)、各種保険、公的年金に至るまで、投資・貯蓄ポートフォリオを自ら構築・運用するために必要となる様々な投資・貯蓄対象の仕組み、税制、価格形成メカニズムについて学ぶとともに、それらを用いて自らの資産運用(節税・相続税対策を含む)や他人の運用アドバイスができるだけの分析スキルや意思決定能力を養成する。(本講義は、群馬大学10号館及び野村證券株式会社高崎支店で行います。)
	経営管理特論	本講義は、企業が価値を創造し成長するとはどういうことかといった、経営の根幹といえるテーマについて、2つの部分に分けて検討していく。前半は、テキストを用いて経営理論を修得し価値創造の在り方を理解する。後半は、観光地経営の価値創造に焦点をあて、それをサービスの観点からアプローチする。サービスには、無形性、生産と消費の同時性等の特徴があり、それらを踏まえた戦略構築やマネジメントが必要となる。講義全体を通じて、ケース・スタディやディスカッションを取り入れて理解を深めていく。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
社会情報学コア科目	社会実証特論	実証分析を行うための調査設計及びそのための基本的な統計技法を講義・演習する。具体的には、回帰分析及びそれに関連した諸問題（不均一分散、多重共線性、内生性など）への対処法や、ロジット・プロビットモデルなどを用いた質的変数モデルの分析、並びに時系列分析について、演習を交えながら、学修する。
	経済情報特論	<p>経済現象を客観的・数量的に分析するためには、公的統計（官庁統計）、金融統計、企業財務データをはじめとする様々な経済情報を利用することが不可欠である。また、必要なデータが存在しない場合には、統計調査を設計・実施してデータ収集することが必要になる。実際に多くの公的機関、金融機関、シンクタンク等では、データの収集や分析を行っている。</p> <p>統計情報を適切に利用するためには、データの作成方法と分析方法に関する理解が重要である。講義では、統計調査法の理論、統計調査のデザイン、国民経済計算、人口統計、世帯統計、労働力統計、物価統計など重要な公的統計を活用した経済構造データ分析、世界開発報告などの国際経済情報を経済分析に活用する方法など重要なトピックの中から、いくつかのテーマを選んで講義する。</p>
	会計情報特論	<p>本講義の対象である「会計情報」は、企業の状態や業績などを数字で見える化したものである。会計情報は投資家などの特定の人々にもみ役立つのではない。すべての人々は大なり小なり、企業の経済活動と関係を持っているから、会計情報は誰にとっても役立ちを有している。そこで、本講義は、会計情報の利用者アプローチを取り入れて、財務会計と管理会計の2分野を中心に、会計学の基礎的な理論と会計情報の効用などについて考察することを目的とする。講義では、多様な事例を用いて、会計情報の内容（財務諸表の内容）、会計手法の仕組みなどを理解し、会計情報及び会計手法の活用における諸問題を理論的に検討していく。</p>
	理論経済学特論	<p>経済学の理論についてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎をまず確認し、その後、高度情報化社会を分析するための諸理論を解説する。具体的には、情報化と経済成長、携帯電話・放送などの無線周波数利用型産業の規制が何故あるか、そして GAF A などのプラットフォーム独占がどのような特徴をもつのか、について解説していく。</p>
	環境科学特論	<p>「環境の世紀」と呼ばれる 21 世紀において、経済活動、企業経営、産業振興などの諸人間活動は、地球環境・地域環境と調和しつつ持続的な展開を目指すことになる。本講ではこのため基礎となる、環境の概念と生態系の成り立ち、調査計測方法、評価方法について概説し、簡単なフィールドワークを行うことにより、環境の科学的な捉え方を学ぶ。また、CO2 環境と地球環境変化、外来種・絶滅危惧種と生物多様性、生態系の構造と機能といった重要な社会・環境情報に関して、その情報収集・解析方法を学ぶ。これらによって、今後の人間活動と地球環境・地域環境の持続的な調和方法を科学的に考察する力を身に付ける。</p>
	地域自然環境特論	<p>地域自然環境の大部分は、人間の活動と密接に関係している。また、地域文化や地域景観の形成においては自然環境が重要な要素の一つとなっている。そこで、本講義では、経済活動、企業経営、産業振興などの諸人間活動において、地域自然環境を保全しつつ持続的な発展を目指すための諸施策・政策と今後の方向性、及びその基盤となる生物・環境資源の現状、生態系サービスと生物多様性の保全、長期生態系モニタリングなどについて論究する。</p> <p>なお、本講義は、野外見学や実地演習を中心に行う。</p>
特別研究	情報学研究	<p>情報科学、社会情報学の分野において、指導教員の専門に基づいて学生が研究課題を選択し、情報科学関連分野においては理論研究・実験・システム作成など、社会情報学関連分野においては方法論の確立・フィールドワーク・各種調査設計などについて研究を行い、修士論文の作成指導を受ける。</p>

切手

貼付

速達

3 7 1 - 8 5 1 0

群馬県前橋市荒牧町 4-2

群馬大学情報学部教務係(情報学研究科担当)

御中

簡易書留

引受番号

二折厳禁

情報学研究科 推薦入試出願書類在中

差出人	志望する プログラム (○で囲む)	情報科学プログラム ・ 社会情報学プログラム
	住所	〒
	フリガナ 氏名	
	連絡先 (自宅電話)	